

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000068		
法人名	医療法人 村石循環器科内科		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	柳川市三橋町木元321-1		
自己評価作成日	H27年2月5日	評価結果確定日	平成27年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou.pref_search.keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

開設4年目のGHです。理念である‘第2の我が家’をめざし、入居の方が自宅生活されていたように、またより以上に安心して、くつろげるGHにしていきたいと思っております。
 職員一同共通のサービスができるよう職員間で細やかに話し合う心掛けと共に、一年を通して季節を感じられるような行事を行い、共同の生活を楽しくして頂いております。
 医療法人ですので、入居者の体調の管理は病院と連携して行い、ご本人、ご家族共に安心されています。
 ゆっくり・楽しく・一緒に過ごすことを目標として運営していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ほほえみの家」(2ユニット)は、母体となる医療法人(医院)から車で5分、近くに系列のデイサービス(音楽療法に参加するなどの交流もあり)もあり、医療を中心とした連携体制は整っていて、家族には安心感がある。濠(水路)が巡る、静かでのどかな田園風景の中にあり、開設後4年を経過した。入居者に、良い環境の中で元気で楽しく過ごしていただきたい、という開設当初のきっかけは、「ゆっくり楽しく、一緒に第二の我が家」という理念として定着、職員一人ひとりが、入居者を尊重しながら、地域とのつながりも大事にして、日頃のケアを通して理念の実践を目指している。残存能力を生かして自分のできる事は自分で行うように努めている。研修を通してのスキルアップにも前向きに取り組み、実践に結び付けている。事業所としては、職員・利用者・家族の意見を大事にしての試行錯誤を繰り返してきた面もあるが、今後も充実を図り、地域に根差したグループホームを目指す意気込みが感じられる。大いに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・楽しく・第二の我が家」を理念とし、自宅で過ごされていた時と同じように、安心してゆっくりと暮らされる事を願い、家族のように職員が接し、地域の住人として生活できるよう支援している	地域密着型の視点のある事業所独自の理念は、玄関や事務室に掲示され、職員にも浸透している。理念を支えるキャッチフレーズとして、「受容・傾聴・尊敬」を掲げ、また職員は月間の目標を設定している。日頃の介護や声かけの中で、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回程度近隣の保育園より遊びに来てもらい、一緒にレクリエーションを楽しんだり、歌やお遊戯を披露してもらう。敬老会開催時、近隣の方に見学に来てもらい、同時に入居者と職員が作成した作品を展示し見てもらう等の交流を図っている。 近隣で火災が発生した時、自宅に入れない家庭の高齢者を預かったこともある。	地域の「ぼんでん祭り」やどんど焼きなどを見学したり、保育園と交流したり、「見守り隊(子どもの安全のために町内に立つ仕事)」に参加したり、といった地域行事への参加に加え、事業所も、敬老会や作品の展示などを行っている。ボランティアや介護相談の受け入れも随時行っており、また畑で採れた野菜を頂いたり、と、近隣の方々との親交を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で話合うことにより理解を得るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況や活動報告を行い、意見や助言を頂いている。会議内容は議事録にまとめ、サービス向上できるよう努めている。地域の行事を教えてもらい、参加できる場所を検討している	入居者・家族の代表、区長、民生委員、保育園園長、行政などが参加、入居者やサービスの状況報告を行い、また、地域の行事への前向きな参加についてなど、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の議事録はよく整理されているが、出席できなかった家族にも経過や結果を報告する意味で、議事録を郵送して、併せて窓口などにて閲覧できるような仕組みを検討していただきたい。家族からの意見を効果的に集約してサービスに活かす事ができるよう、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加してもらう。 市の高齢者福祉係や包括支援センターに困難事例の相談を行い、対応策を指導して頂くこともある。 空きが出た時に連絡したり、入居の相談があることもある。高齢者等徘徊SOSネットワークの連絡会議に参加。	行政には、入居についての情報交換や困難事例についての相談を、訪問または電話で行う。包括にも必要時に訪問し、対応上の問題に対する相談を行い、適切なアドバイスをもらっている(最近では、「異食行為」について相談した)等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成。現在身体拘束が必要と考えられる入居者はない。 就寝後、夜間起床時にふらつきが見られ、転倒の危険性がある場合はセンサーマットで対応している。	マニュアルがあり、日中は玄関・勝手口とも施錠はしていない(勝手口のみベルを付けている)。職員は、入居者の離脱傾向を把握、見守り等を行うなどの配慮を行っている。現状拘束はないが、対応の際に必要な家族の同意書は備えている。研修も行われており、職員は研修を通じて知識を習得し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状では身体虐待の事例はない。 職員会議時に何が虐待にあたるかを話し合っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH内会議開催時に研修を実施する予定。 現状で必要性はないが、今後必要な場合は活用していきたい。	現在利用者はおらず、入居者(家族)側からの相談もないが、事業所にパンフレットなどの資料を備えていて、行政につなげる体制は整っている。職員間での研修も行っており、その資料がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族、又は代理の方と契約を結ぶ。その際は十分時間をとり、書面をもとに説明。疑問点などは丁寧に説明を行う。 契約終了も同様。他に改定時には文書で説明するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に最近の状況を伝え、質問や要望があれば伺い対応できるようにしている。 必要な内容はスタッフ間でも話し合い、運営に反映させている。	入居者の願いや要望等は、日々のかかわりの中で聴取を行い、迅速な対応につなげる。また家族には、写真付の事業所便りを郵送して報告、意向を伺う機会づくりに努める(意見箱設置や家族会もなく、直接の会話による事が多い)。意見や苦情は記録と同時に会議で報告、情報を共有する。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時や会議時に意見があれば出してもらい、必要な意見、提案は代表者と話し合い反映させている。	月1回の定例会議や、随時の個別面談において、職員は意見や気付き、相談等何でも言える環境にある。また管理者はそれを積極的に運営に取り入れて、職員の意欲にもつなげており、信頼関係を築いている。職員交替時の引継にも十分時間を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者の話し合いにより職場環境を整備できるように努めている。 給与等の説明や困りごと等は代表者と職員の個人面談もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男性も含め20代から60代までの職員が勤務している。それぞれの経験を生かし、相互に協力し合い業務を行っている。	採用選考において、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。20~60歳代の幅広い雇用があり、職員も書道などの特技を生かしている。日頃より職員は休憩室で十分な休憩時間が取れており、シフト上も休みが比較的取りやすい。また、入職後のスキルアップ、研修への参加、資格取得の支援にも前向きで、安心して働ける職場環境での安定したサービス提供につなげている。	

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	GH内の会議時に身近なことから話し合っている。 言葉づかい、呼びかけ方、会話の中でも敬う気持ちを持って話をするように職員間で話し合っている。	管理者が中心となって職員全員が、入居者一人一人のその人らしさを大切に受け止め、言葉遣いや声の掛け方にも考慮して、支援の実践に取り組んでいる。外部研修への参加もあり、伝達講習も行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH内では月に1回の会議を開催、主として入居者の対応について、職員が同様のケアを実施できるよう話し合う。また、外部の研修を受ける機会を設け、会議時に報告してもらい内容を共有することとしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業所主体の研修等に参加し、意見交換することもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設内見学、本人、家族と面談を行う。面談の中で本人の状況を尋ねるようにしている。入居者には担当のスタッフを決め、より親しめるようにし、信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設内見学、本人、家族と面談、相談の時間を設ける。困りごと、要望等を話し合う。 質問、疑問などは丁寧に対応する。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活環境、状況を聞き取り、GHの入所が本人にとって安心して過ごせる場所となるのかを家族と相談する。在宅サービスの説明も行う。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人ができる場所は職員が支援、介助しながら実施してもらう。 入居者同士も移動時に「気を付けて」と声掛けされたり、軽度の麻痺がありうまく更衣ができない方を手伝われたりされることもある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を家族訪問時に報告。月1回担当者から近況報告やお願いごとのなどのお便り、また、日頃の様子が分かるような写真を掲載したお便りを送付。本人が落ち着きが無い時、会いたいと言われる時は連絡し、面会をお願いする。外出時同行をお願いすることもある。お弁当持参で来		

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの床屋に行かれたり、知人や親せきに近況報告のはがきを出されたり、お孫さんからの電話や在宅時の知人の訪問や電話を取り次ぐこともある。	職員は、入居者の馴染みの場所や人について把握しており、思い出の場所(以前住んでいた自宅などに)職員と出かけたり、知人から招待を受けたり、冠婚葬祭や選挙などに足を運んだり…といった対応をする。入居者が築いてきた関係や、地域住民とのつながりを継続できるよう支援に努める。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中リビングで過ごされることが多く、レク、体操等を一緒に楽しめる。食事と一緒に摂られ、お互いの世話をされることもある。洗濯物を干したり、畳んだりと一緒にされる。転ばないようにと声掛けされる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方の様子を施設の職員に尋ねる。本人に面会する。 ご家族と年賀状のやり取りをする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは入居者の思いを聞けるよう細やかな対応ができるよう努力している。意志の疎通が困難な方の直接的な要求は身振りや様子を見て察することができる場合もある。外出等の希望は家族に依頼することもある。	入居者の思いや意向については、会議などにおいて、なるべくそれが叶えられるように、また職員の間で共有できるように、話し合いを行っている。記録は、独自のアセスメントシートを使用している。日々の入居者の言葉や行動、仕草、表情などから、意思疎通が困難な方も含め、本人本位の支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族より聞きとり、その後本人との会話の中でどういった生活をされてこられたかを聞き取るように努めている。 担当CMIに情報提供をしてもらう。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方、身体的状況等、介護日誌に記録、日々の変化が分かるようにしている。 体調不良等の特変がある場合は特に注意し、申し送り時に確実に情報を伝える。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況は日々の申し送り時、気づいたときにスタッフ間で共有し、会議時に対応を話し合う。 家族訪問時に意見を頂き、現状に添うような介護計画を作成していきたいと努めている。	独自のモニタリング表を使用、入居者や家族の意向をもとに介護支援専門員が作成した原案を、カンファレンスで職員に諮り、「その人らしさ」を重視した介護計画としてまとめている。半年に1回または随時見直し、その都度本人および家族への説明を行い、署名をもらっている。計画の内容は職員が共有して、日々のケアに活かしている。	プラン(支援項目)についての実践状況を、毎日とは言わないまでも、まとめて記録した方が、モニタリングの際などに効率が良いのではないか、と思われ、検討をお願いしたい。また、プラン策定の際は、多くの職種の職員からの意見の集約を、サービス担当者会議の議事録にも記載し、整理をお願いしたい。

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で職員が気づいたこと、支援が必要な部分は、日誌、申し送りノートなどに記入。 申し送り時の伝達で情報を共有し、実践するようにしている。また会議時に話し合い意見を交換している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の病院受診以外の受診は家族の付添を依頼しているが、現状は職員が付き添うことが多い。併設のデイサービスの音楽教室開催時や慰問があるときに出掛け参加している。誕生日の方は職員や家族とお屋外会食を計画するケース		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々にもGHに理解を頂き、今後地域の活動に接することで豊かな暮らしになることを努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医の継続を希望される方、当法人の医療機関に変更される方とある。法人病院より1/2w回の往診にて健康管理を行っている。家族付添いで他医院へ受診される方もある。それぞれに日頃の体調の報告を行っている。	母体医療法人からの週1回の訪問診療がある。医師の自宅が事業所近くにあり、緊急時や夜間もすぐ対応できる。入居前からの病院受診の継続も可能で、基本は家族送迎、必要時は職員が同行し情報を伝えている。受診後の家族との情報共有も電話や口頭で行い、申し送りやノート記載で情報を共有、個人毎に看護経過記録などに記録し、体調を管理する。訪問歯科も可。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人病院との医療連携となり、往診時に同行してもらい、入居者の体調管理をお願いしている。 体調の変化がある場合は、電話連絡で指示を受けたり、訪問により対応してもらう。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活状況の説明を行う、又は情報提供書を提出する。 入院中は病院や家族に病状を尋ねる連絡を行う。退院時は医療連携室により状態の情報を頂いたり、カンファレンスに参加したり、看護サマリーを頂く等で対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し、必要時に家族に説明を行う。 法人病院と連携し対応となる。 介護の場と医療の場では対応に違いがあることを説明し、家族と話し合うようにしている。	最期まで支援する方針であるという看取りの指針があり、家族からの同意を得ている。母体医療法人や主治医や提携医、訪問看護師とも連携をとりながらの対応は可。ただ、今のところ看取りまで至った事例はない(看取りを行う方針の方が1名おられたが、家族希望で病院へ入院となった経緯あり)。外部研修に参加、伝達講習も行っている。 AEDも研修を受け、事業所内に設置。緊急時の点滴や体調不良時の酸素療法の対応もできる。	

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故などの緊急マニュアルを作成している。 救命救急の研修開催予定。 AED設置。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成、避難訓練の総合訓練、自主訓練を実施し、消防署の指導を受ける。 運営推進会議時も区長さん、民生委員さんに近隣の協力をお願いしている。	年2回避難訓練を行い(うち1回は消防署立ち合い、1回自主訓練。夜間想定はない)、地域住民の参加がある。約4ヶ月前に近くの系列のデイサービスの隣で民家2軒全焼の火災が発生、その際デイサービス利用者を、当事業所内にすばやく避難させて受け入れた経緯あり、職員も訓練の成果を実感した。火災時等の協力支援体制の構築は出来ており、備蓄も約2日分準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握するように努め、声掛けの仕方や対応に気を付けている。 排泄や入浴等個人的に行うことはプライバシーを尊重するよう心掛けている。	接遇マナーについての内部研修を行い、ミーティング等で管理者から職員へも話している。職員間でも相互に注意しており、日々のトイレの声掛け等も大きな声で言わないように、一人ひとりを尊重した言葉掛け等の配慮が行われている。	個人情報保護の方針に対する同意は書面にて得られているが、事業所内には写真の掲示もあり、また2ヶ月に1回は写真付きのお便りを送付し家族も楽しまれていることでもあることから、写真を利用する旨の同意書を得られる事が望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望にできるだけ応えられるよう支援している。表情や態度から窺えることをできるだけ察して対応するよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間は本人の意向で行う。食事の時間がずれることもあるが、その方のペースで過ごされる。苑庭に出られる方、昼寝される方、居室で過ごされる方と希望にそって支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1/2ヶ月に一度程度美容師さんに来てもらい、伝えられる方は好みの髪型にされる。男性は自分でひげをそられたり、ひげを整えられる方もある。 衣服も自分で好みの物を着られる方もある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューを見えるところに掲示、食事前から確認される方もある。テーブルを拭く、下膳する、食器を洗う、等できる方は進んでされる。入居者の好みを尋ねメニューに入れることもある。	管理栄養士が献立表を2週間単位で作成、調理専門の職員が買物まで含めて行う。好き嫌いには柔軟に対応、ミキサー食や治療食等も可。外食の他、弁当を戸外で食べたり、おやつと一緒に作ったり、畑で当日朝に収穫した野菜が並んだり、職員も会話をしながら一緒に食べたり…と、食事を楽しむ工夫が見られ、ゆったりとした和やかな雰囲気が入居者に喜ばれている。	

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を調理し提供している。食事摂取量、水分摂取量を記録している。個々に見合った量や形態の食事を提供、水分摂取が少ない方は本人の好みの飲料を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケアを行う。拒否される場合は様子を見る。できる方は自分で、困難な場合は介助を行う。義歯は曜日を決めて夜間預かり洗浄液に漬け置きする。痛み、不具合等ある場合は提携の歯科医院に治療を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて記録を実施。自分で行かれる方は見守りを行い、訴えがある方は介助してトイレで排せつ。困難な場合は時間で声掛けしトイレ誘導を行う。夜間は個人の間隔で声掛け、トイレ誘導、パット交換介助を行っている。	全入居者の排泄チェックがあり、職員は排泄のタイミングを把握して声掛けや誘導を行う。リハビリパンツ使用が布パンツ使用となったり、パッドの使用枚数が減ったり…といった改善が見られる。介助時も、自尊心に配慮した対応を心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を工夫し、水分摂取を勧める。牛乳、ヨーグルトを提供。レクの一環として体操の実施。困難時は緩下剤で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本1回/2日の入浴。体調に合わせて実施。希望で毎日入られる方もあり。個浴で介護員が一人介助に付、本人のペースに合わせて実施している。職員が十分対応できない時間帯もあり、午前中の中の入浴が多くなっている。	基本は隔日だが、毎日入浴できる(日曜日は休み)。個浴でかけ流しで、好みの湯温で入浴でき、石鹸やシャンプー等の持ち込みも自由。一番風呂の対応も可。体調によっては清拭や足浴で対応することもある。職員は、皮膚等の状態を観察する。ゆず湯にしたり、入浴剤を使用したりもする。更衣室にはエアコンも設置している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせた就寝時間を心掛けている。布団や居室の温度調節を行い、安眠できるよう整える。昼寝も本人の希望で実施、夜間の睡眠の妨げにならないよう時間で起こすようにしている。夜間、リビングソファで睡眠される方もあるが、本人の意向に添って支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示にて、服薬。チェック表にて与薬の確認を行う、往診時に主治医に症状の報告を行う。お薬手帳で服薬変更時や、他病院受診時に確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月その月の誕生会を開催し励みにしてもらう。月ごとの行事を決め、参加してもらい楽しんでもらえるよう支援している。職員と一緒に工作したり、ボタン付け等の裁縫をお願いすることもある。おやつに好みの菓子を提供する等気分転換の支援している。		

H26自己・外部評価表(GHほほえみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて車で外出、外食やおやつを食べに行くこともある。 外出時に不穩になれる方は家族の同行をお願いしたり、遠方の外出を希望される場合は家族に連絡し願う。 誕生日には家族と一緒に外食に行く支援を行う。	季節の花見(梅雨時や冬を除いて毎月)に、数名ずつで何回かに分けてゆったりと出掛けている。外食も含め、普段行けない所への外出は、入居者からは好評である。その他、天気の良い日は事業所周圍の田園風景の中を濠沿いにゆっくり散歩し、途中で保育園のベンチに座ったり、お宮にお参りしたりもする。系列のデイサービスの音楽教室に月2回参加している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されることはなく、必要時に家族に相談している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より申し出があれば電話連絡できるようにしている。家族、知り合いからの電話は本人に取り次ぎ話をしてもらう。はがきを書かれる方は出す支援を行う。家族、親せきからの手紙が送られてくることもある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔を保っている。リビング内は季節に応じて飾りつけを行う。行事の写真や入居者の作品を飾り、見て楽しむでもらっている。 室温、照明はこまめに調節を行っている。	ホールの大きな窓から花々や濠が見えて、季節の移ろいが感じられる。吹き抜けの高い天井にはシーリングファンがゆったりと回り、天窓からは太陽光が差し込み、温かみがあって明るい。色とりどりの折紙で作った「さげもん」や習字等の作品や写真が飾られている。ユニット間の交流もできており、楽しい雰囲気が伝わってくる。共有のトイレには左右の介助バーが設置され、車いす対応が十分できる広さがあり、介助しやすい。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファーや、一人掛けの椅子を置き思い思いに過ごされている。テーブル席で会話が弾んだり、テレビを見ながら過ごされることもある。ウッドデッキのベンチで日向ぼっこされたり、外を眺められたりされる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に在宅時に使われていた家具、持ち物等置かれている。 パソコンも持参されている。 本人の好みで畳の居室もある。 家族の写真が飾られている居室もある。	居室の窓は大きく明るく、フローリングの床は畳に変更可。ベットやクローゼットは備え付けられている。仏壇・パソコン・テレビ・冷蔵庫・鏡台や時計やぬいぐるみなどを持ち込まれている(持ち込みは自由)。使い慣れた物や好みの物で、居心地の良い部屋づくりがされており、一人の時間を確保できる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、リビング、浴室等手すりを設置し安全面に配慮している。居室の入り口には本人の名前、写真を飾り、トイレには大きく場所の表示をしわかりやすくしている。		